



元気っ子

No.256 ながさわ保育園

平成 30 年 12 月号

園 長 市 川 温 予

早いもので今年も残すところ一ヶ月になりました。朝晩はぐっと冷えこむようになり、正面玄関のかつらの木やとちの木は風に吹かれてどんどん散りはじめ、冬の姿になっています。中でもいちちょうの木は今とてもきれいで、あたり一面に散った黄色の葉っぱがまるでじゅうたんのようです。先日、異年齢のクラスがいちょうの葉っぱを拾って製作をしていました。身近にある自然物、葉っぱやどんぐり、しいの実、お茶の実などを拾い集めたりする機会が多く、自然物で遊んだり、製作をしたりと楽しんでいる姿を見ると、「自然は子ども達にとって好奇心の対象で、大切な宝物なんだ。」といつも思います。

小さい手で握りしめたたったひとつのどんぐりやしいの実も大事そうにそっと手のひらをひらいて見せてくれます。なんとも可愛らしい姿で思わず笑顔になります。こうして小さい時から自然に触れ（自然体験）、いろんなものを見たり、聞いたりと実体験をして自然の美しさや不思議さを感じることは好奇心や心の豊かさにつながり、子どもの育ちにとってとても大切なことだと思います。

さて、今年も 12 月 14 日(金)に鈴鹿市文化会館けやきホールでおゆうぎ会を行います。2 歳児から 5 歳児まで一生懸命にダンスや劇、歌などに取り組んでいます。毎日の様子を見てみると本当に日に日に上手になっていきます。先生や周りの友だちの姿を見て、刺激を受けて心が動きだんだん出来るようになっていきます。先生達も必死になって取り組んでいます。上手にできると「すごい。みんなに聞こえる声でよくわかったよ。」「みんなの動きがそろってきれいやったよ。」「〇〇ちゃんの顔、にこにこでよかったよ。」と具体的に先生達も褒めています。子どもは褒められることによって、心地よく、また頑張ろうという意欲がわいてくるのだと思います。とにかく私は大人が手間暇かけてなんでもやることが大切だと思っています。今の時代、なんでも便利になりすぎています。先日、「全国保育研究大会大分」に黒宮先生と一緒に行ってきましたが、その時の講師の方のお話でも、「今は家の中をルンバが動く時代。人が動かず機械がやってしまう。もっと大人が動く姿を子ども達に見せて行ってほしい。そして大人がお手本になってほしい。」ということでした。保育園でも私達保育士が生活者モデルになる、そうすることによって自然に子ども達にもいい姿が伝承していくのだと思っています。何事も丁寧に手間暇おします。また、“練習する時は一生懸命にする、遊ぶ時は遊ぶ”のメリハリのある生活をしていきたいと思います。

おゆうぎ会まで楽しくまた一生懸命に取り組んでいきたいと思いますので、お家でも子ども達の頑張りをいっぱいほめて認めてあげてほしいと思います。

12 月 29 日(土)から 1 月 3 日(木)まで冬休みとなりますので、よろしくお願いいたします。